

流山市総合計画後期基本計画策定に伴うタウンミーティング議事録

- 1 開催日時 平成21年8月29日(土)
午前9時40分から11時40分
- 2 場 所 南流山センター
- 3 出席者
(1) 市民(31名) 自治会13、NPO等6、その他11 無回答1

(2) 出席職員等
(特別職) 井崎市長
石原副市長
鈴木教育長
(施策担当部長) 阿曾都市整備部長
志村土木部長
吉田市民生活部長
海老原生涯学習部長
高市健康福祉部長
沼沢子ども家庭部長
池田産業振興部長
染谷企画財政部長
(担当課) 水代企画政策課長
安井企画政策課長補佐
- 4 配布資料
書類1 後期基本計画(素案)の広報特集号(校正中)
書類2 会場説明資料(スクリーン表示内容)
書類3 分野別計画事例
書類 後期基本計画素案に関するアンケート

5 意見交換

井崎市長あいさつ、染谷企画財政部長による特徴説明、水代企画政策課長による内容説明の後、安井企画政策課長補佐の進行で意見交換を行った。

(市民)

南地域の大きな課題である図書館が位置づけられていない。分館はあるが、北部地域にあるような森の図書館のようなものではない。独立した南部図書館というのが最大の課題である。かつ居住性のよいもの、そこに来て読んでいける図書館でなければならないと思う。今の分館では無理である。

流山市の図書館の予算は、2000万円から3000万円であるが、これでは一人200円程度である。たとえば、浦安図書館はすばらしい。年100人も見学者が来るそうだ。毎年財源の1パーセントを使うと決めている(1億円)。流山3000万くらいか？ いつも金がないというが、米100俵の理念で、将来を見越した投資も必要ではないか。

(市)

過去数年間の経緯をご説明しますと、2000万円程度の予算で、県内でも低い水準であったものを、4000万くらいまで引き上げてきました。今問題となっているのは、本は購入できますが、しまう場所がない状況になってきていることです。図書館の拡充は考えていくが、新設は優先度評価、市民満足度を踏まえたときに、他を削ってということになりますが、今後の検討にさせていただきたい。

(市民)

前期の検証は終わったのか、いつ公表されるのか。

テーマの、「都心に一番近い森のまち 流山」は、ベッドタウン化を促進するような、独自性が無く、東京依存のイメージが強いと思われる。

(市)

東京との関係で動いている部分が多いが、夜寝るだけのまちということだけでなく、都心から近いところにこれだけ緑地がある、駅の近くに機能集積できるメリットがある。企業誘致や、こうしたまちに価値を見出す人を呼び込んでいくが、ベッドタウンというよりも、ホームタウンという考え方で、流山を中心に考えていきたい。

森には、健康、文化の意味を含めている。

(市)

前期の評価については、平成21年度で計画期間満了となるので、その後評価、総括を行って終わる予定です。

(市民)

「都心から一番近い森のまち」というのはいいと思っている。しかし、実際には計画的に作られたのではなく、偶然のことだと思う。これからどうするのか、市の施策がどうなっていくのか。1節の2の中に、「良好な都市環境の形成に向け、開発事業の適正な指導に努めます。」とあるが、この指導というのは、法的根拠をつくらなければ効果が無い。きちんと指導ができる条例をつくって欲しい。

人口フレームについて、開発人口で10年間は増えるだろうが、それが10年後以降は増えないだろう。高齢化は進む。この10年でその先どうなるかのまちのビジョンをつくって、まちづくりをコントロールしていく必要がある。高齢化したときのまちづくりが明確に示されていない。

(市)

社会、自然増減等、いろいろあって減っていくが、10年後に入ってくる人口が0になるわけではない。良質な環境を維持できないまちは捨てられると思う。新しいまち、今のまちに手を加え、環境に良いまちにしたい。国の法律はゆるく、建てる人には有利だが、周辺にはデメリットになる開発が横行していた。開発指導要綱を条例化して、国の法律ではできなくても、市の条例で強力にお願いしていけるよう、10年といわず早期に取り組んでいきたい。

(市民)

キャッチフレーズはいいが、具体的にみると、新住民が入ってきて、流山は自然環境がいいというが、ところが、破壊されところに入ってきているという人もいる。私は、破壊ではなく、都市化による整備というんですが、その辺を理解がされていない。行政として説明をしていく必要がある。保全する自然の明確化など、新住民にアピールできる部分が必要だ。

(市)

セントラルパークの森のような運動公園、おおたかの森の23ヘクタールの市野谷の森、ここにはオオタカやフクロウが生息している。これらは市民運動の成果として残ることとなった。T×開発は区画整理をやりながら鉄道用地を生み出す方法の中で、2つの大きな森を残したというのは、誇りに思う。しかし、都市計画に位置づけられた2つの森と、単なる雑木林の、双方を見て緑があると感じていると思う。これは区別できない面がある。しかし、雑木林は土地利用すると決めた土地であるので、それは変えられない。開発の時に高木を残すなどの配慮をしているが、市民の皆さんには身近な緑の問題で言われる。全ての市民に理解していただくのは難しい。

(市民)

1-1の「生態系に配慮した公園・緑地・水辺等空間の整備・管理」は、10年間での取り組みか。宮園調整池を公園にするのに、25年かかった、今年の11月から整備が始まることになった。

表現全般が議会向けのようだ。市民にわかりやすいような表現にして欲しい。道路

が計画路線名そのままだったり。鯖ヶ崎駅の南の踏み切りは、やるといいながら、着手されていない。有言実行でお願いしたい。

(市)

私が市長になってから、実施計画に位置づけたものは、しっかりやっている。過去の事業はどうであったかはわかりませんが、万一、不可抗力で実施できない場合は理由を説明していく。

踏み切りについては、この秋から整備していく。優先順位を決めて整備をしていく。

(市民)

宮園池の公園は、行政と市民が協働できてきたものであり、感謝している。緑地の問題については、市長の話も理解できるが、敢えて、言えば、マニフェストで入れてもらって、過去決まったことをひっくり返すくらい、都市計画用途を変えるなどお願いしたい。

高齢化、防犯、安心・安全社会活動には、コミュニティづくり、市民によるまちづくりが重要である。流山市では自治基本条例ができたが、いかに実行していくか、それが後期基本計画だと思う。ハードばかりやられているが、ソフトの面は金はいらない、もっと前面に出していく必要があると思う。方針として打ち出せば、より実行が進むはずだ。

(市)

マニフェストでは、条例でやることはできないので、法律で、行政の範囲の中でやっていく必要がある。ご提案もお願いしたいところである。

コミュニティづくり、自治基本条例もできたがこれからは本番と思っている。これから市民参加(参画)条例、市民投票条例、コミュニティ関係も整備したい。自治基本条例の理念が具体的に実現する仕組みを準備していく段階であるが、今後より一層進めていきたい。

(市民)

地球温暖化が問題となっている。流山市においても、総合計画の中で考えていただきたい。地球にやさしいまちづくりは、いろいろ書いてあるが、低炭素化社会に向けた市民のとりくみなど、具体的な指標を示してもらいたい。江戸川大学との協定が進められ、まちづくり研究センターを設置するという話も聞いているが、研究の段階ではなく、実施の段階である。リーダーシップを発揮して欲しい。

(市)

総合計画の素案で具体的な目標として、市民1人あたりの二酸化炭素排出量の削減を具体的な数値で設定している。大学との連携で研究となっているが、具体的な運動として展開していく考えである。グリーンチェーン戦略の効果として各地で温度を調査したり、その結果でまたどうしようか考える、そういう運動体として考えている。

実行段階のものともみて欲しい。

(市民)

子どもの問題について、給食費を払えない家庭、貧困の問題が大きくなっていくのではないか、今の状況、今後について伺いたい。

学童保育、待機児童の問題について、もう断らなくてはならない状況になっているらしい。地域のなかで学童保育所を作っていくべきだと思うが、学校の中に作るのか、地域の中に作るのか、どのように考えているか。待機児童はどのくらいいるのか。

豊かな未来のためには、子どもが大事である。親子が安心できる政策づくりはどうかになっているか。

(市)

子供は宝、という考え方は重要だと思う。学校の生活は格差あるが、流山では給食費不払いは皆無である。遅延はあっても1年以内に払っていただいている。その他、行事等については、収入の基準があって、準要保護の制度がある。申請者は増えている状況である。一方、親の義務として、払ってもらう部分はきちんとして欲しい。生活保護費をきちんと教育にまわすなどして欲しい。

(市)

学童クラブは、15小学校区全てに配置しています。立地条件が、学校内にある施設、学区外にある施設もあります。学区外については、学区内で通えるようにしていく予定である。待機児童については、確かに増加している。平成20年が48人、平成21年が63人である。これを解消するために、今後、安心子供基金を設立し、300人分の民間による保育所を建設する予定である。セントラルパーク駅など。12月から保育ママ制度を実施し、3歳未満児を対象に保育を行っていく。

(市民)

都市計画道路3・2・25号線、江戸川新橋道路は、現在の流山橋が、非常に渋滞することから10年前から話がある。いつ頃できるのか、伺いたい。

災害対策として、新型インフルエンザが流行っているが、国ではワクチンを輸入することのことだが、流山ではどう対処するか。

(市)

江戸川新橋道路については、平成17年11月に都市計画決定をし、環境調査を行って地元にも説明会を行った。周辺の理解が得られなかったが、今般、道路構造の変更、環境対策、地権者対応、周辺3自治会等との覚書の締結を行い、事業の進捗が図られるところである。事業については、主体が千葉県の事業で、都市計画変更1年かかり、完成はさらにその先だが順次やっていく。

(市)

新型インフルエンザについて、ワクチンの国内生産、備蓄は、不足していることから輸入という話がある。国から県を通じて供給されるとのことだが、未定である。感染拡大を防ぐ対策を強化し、学級・学校閉鎖のための基準を設けるほか、予防啓発に努めて感染予防に努めている。また、医師会、公共交通機関、病院等と、対策会議を設置し、その中で受け入れ体勢の強化を医師会を通じて要請している。

(市民)

神明堀の迂回道路について、ダンプが通って、通学路の子どもが危ない。歩行者道路(橋)を確保すべきである。県に対し、市の方からいって欲しい。

また、神明堀は浮遊物がひどいので、早急に除去をして欲しい。

神明堀のガードレールの設置について、学校側とも協議して設置すべきである。

(市)

橋の件については、仮設道路の要望が出ています。平成22年度で完成するので、松戸市と協議していきたい。

神明堀の水質については、浮遊物が多いということで、流山排水機場の利活用として、今年度、江戸川から水流すので、改善されると思われる。

ガードレールは、堀の回収後、道路整備の中で考える。

(市民)

5節、「市の魅力を首都圏を中心にPRし、企業誘致、住民誘致を推進します。」とあるが、これはそのとおりなので、東京のほうにPRしていただきたい。

また、「地域の特性に応じた新たなサービスやイベントを展開し、魅力ある商店街づくりを支援します。」については、流鉄沿線が寂れているので、活性化に力を入れて欲しい。

おおたかの森は拓けたが、セントラルパークは寂しい。底入れをお願いしたい。上がってきた流山の知名度を活かして欲しい。

(市)

流鉄の活性化については、基本は民間企業のことであって、流山鉄道は黒字の会社です。流鉄の利用増、まちづくりの仕掛けのありようについて、調査をしようとした。流鉄にお願いしてきたが、のってこなかった。市で調査を実施した。ワンマンカーを走らせているなど、流鉄では、経営合理化を少しずつ進めている。会社が生き残る意思があるかどうかにかかっていると思う。

(以上で、終了)